

父は出征、母は病死

悲しみの泰男君を救ふ

同級光一君の銃後美談



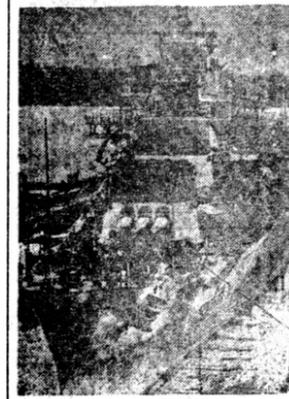
八王子市第二小學校はお母さんを中心に、産がもとて先亡く三年の石井泰男君の銃後を守つてお父さんお父さんは、五人の兄の凱旋する日を待たせ、弟を残して去年出征つてお父さんが、頼りになりました。五人の兄弟にしてお母さんは、お

齋藤大使の遺骨

アメリカ軍艦に護られた



六日病氣のためワシントンで亡くなられました。お年は五十四でありましたが、米國ではルースベルト大統領の命で、今まで日本と米國との交は



りに盡した齋藤大使の遺骨は、先づ日本に送られることになり、アストリア號は、朝、横濱に着きました。お骨は一萬トンの巡りのアストリア號に、アナポリス軍港を去

ヨットを探りたゞ一人

世界一周のイタリー人

間もなくあこがれの日本に

先だ つてジャンクで、去年の五月、ローマを出立し、太平洋を横断した。それからアフリカ北端のオーストラリアまで行つて、もう間もなく日本へ現れる。この間、なんと美しい友情の班長で、銃後の世、お家の事情を語りま

夜月

子ナナ中田

月夜に 月夜に
 何處からか 何處からか
 さえた笛の音 聞えます
 月の光のさえるよな 木の葉の夜露のすべるよな
 静かな笛の音 聞えます
 月夜に 月夜に
 何處からか 何處からか
 美しい歌が 聞えます
 花の夜の光のよな 星の夜の光のよな
 美しい歌が 聞えます

数字の假名

数字の下に書いてある数字はその数字の二つ(の假名文字)に當ります。例へば「16154」は「アサガキ」といふたやうに、これをうまく當てはめて、一番下の数字を左から右へ読んで下さい、何と書いてありますか。

(答)「エイイサン アリガタウ」(木村早恵)

馬	鳥	魚
B 8	12 5	1 6 15 4
11 2	9 7 20	10 3

5 12 10 9 6 7 1 2 15 10 B

天長節

特別寫眞ニュース



伐征敵殘

はなんし、敵軍にひきかへて、ゲラ戦の得意な敵の偵察はかくれた苦心です。勇ましい兵隊さんは、零下何十度の北支に、寒風が中央の奥深くに、真夏のやうに暑い南支に、この目立たない苦心をくりかへしてあります。(1)南支三江の敵を退つて、かくれる物もない廣野に散開した石本部隊の勇士。(2)星子城を捕獲した部隊です。古塔に夕陽あかく、枯草風に鳴つて、軍馬高きうなく。(3)對岸に殘敵をめぐり、凍る部陽湖畔にそつて、偵察に行く騎馬の勇士。(4)道のまん中に、敵が掘つて逃げた戦車を押して、シヤウ一枚で通過する石井部隊の勇士。(5)南支の戦線です。(6)「あゝ」のこりやましい「敵軍附近を襲る高田部隊の勇士が、敵を撃つて、汗をよそぐ」一休み。

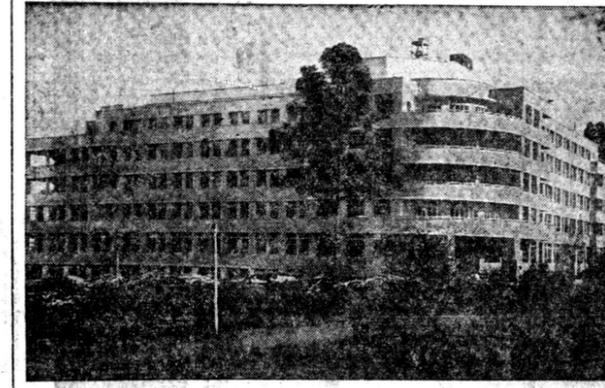
少年詩

愛國の母

二つともパラグワキ戦争(一八六四年一八六九年の事)のことをつたつたものです。イトロロ、ガレンチナスはどちらもパラグワキの地名。ブラジル軍とパラグワキ軍との間に激しい戦いのあつたところ。パラグワキはこの兩國の境にある河。

カシアス將軍

大砲も凍る雨しよき木蔭にさけて指揮をとる。カシアス。カシアスの陣はあかく燃えてゐた。グアレンチナスの天輪に砲は守りを固くして。矢弾丸はためく谷間にブラジル軍は血を叫びた。生きて再びパラグワキ。越さしめ決めた勇士でも。

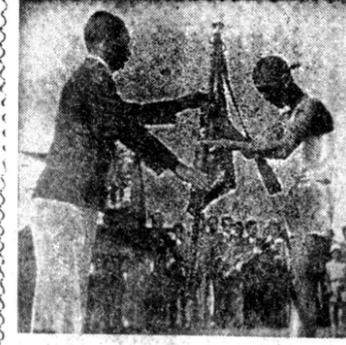


サア、開かれた われらの病院

サンパウロ市パラグワキ方面の高古山、もう長いこと工事。サア、開かれた。われらの病院。こんなに立派です。

僕等の才大會

六月廿一日に聖市で。僕等の才大會。六月廿一日に聖市で。僕等の才大會。六月廿一日に聖市で。僕等の才大會。



突撃遊び

二組にわかれ。突撃遊び。二組にわかれ。突撃遊び。二組にわかれ。突撃遊び。二組にわかれ。突撃遊び。

武長號の戦場便に

飼主が武運を祈るこの情

中島大尉も愛馬をなでて感激。武長號の戦場便に。飼主が武運を祈るこの情。中島大尉も愛馬をなでて感激。

夜に日進軍の旗(高野海)



はれこ外意

者病臆は馬河。はれこ外意。者病臆は馬河。はれこ外意。者病臆は馬河。



河馬は臆病者。河馬は臆病者。河馬は臆病者。河馬は臆病者。河馬は臆病者。

河馬は臆病者。河馬は臆病者。河馬は臆病者。河馬は臆病者。河馬は臆病者。

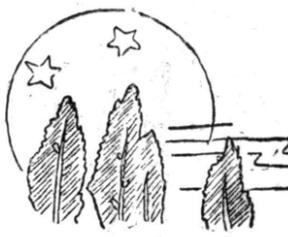
軍馬



詩、佐竹勇。軍馬。詩、佐竹勇。軍馬。詩、佐竹勇。軍馬。

カタカナニンゴ

フタツノホシ

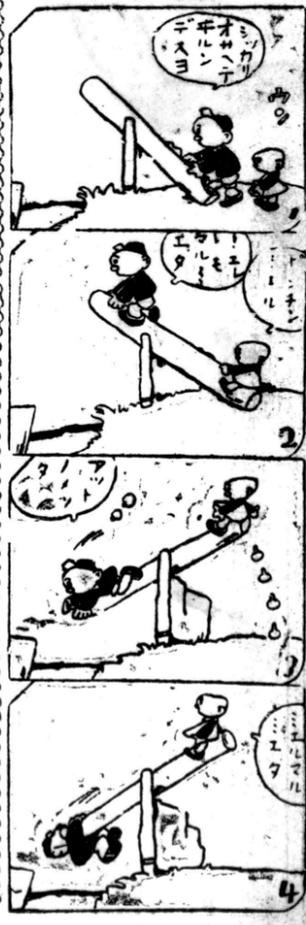


アライホシト マシタガ アライ
 キイロイ ホシガ ホシハ ハナレテ
 アリマシタ。タクサン サビシサウニ シテ
 ノホシノ 中デ キマシタ。
 コノフタリハ タ アルトキ タクサン
 イヘン ナカガヨノ ホシガ一シヨ
 リト ソラカラ
 オリテ キマシタ。
 ソシテ イケノ
 フチニ タツテ ミ
 テ キルト タイヘ
 シンズンノ カホ
 ガ キレイニ ミエ
 マシタ。ソコデ イ
 ノ中ヘ ソツト
 ハイリマシタ。
 トコロガ ウツカ
 シクシク ナイテ

オイケ

アライ オイケノ
 水ノ上
 ヲシドリ ナランデ
 スベツテク
 オイケノ マハリノ
 アラクサニ
 子ドモガ スワツテ
 手ヲ タタク

ケンヤジ ンヤチンボ



キイロイホシハ ソコデ キイロイ
 イソイデ オリテ キホシハ アライホ
 マシタ。ソシテ アラ シノ キモノヲ
 イホシノ ソバ スツカリ シボツテ
 ヘイクト アライキセテ、手ヲ ヒイ
 ホシノ キモノガテ マタ フワリフ
 ズブツブ ニヌレテ ワリソラヘノボ
 オモサウ デス。 ツテ イキマシタ。

ホトケサマト アサハカナロバ

アルトキ ロバガト オモツテ、トクイ
 リツバナ ホトケサマ
 コチラ サガシテキ
 ルト チャウドジ
 ブンノ 下ノ モ
 リノ イケノソ
 バニ タツテ キル
 モノガ アリマス。
 ヨクミル ソレ
 ハ ナカヨシノ ア
 ライホシデ アリ
 マシタ。



少年 にしちみせんしや 物話 西住戦車長

久米正雄

そのふるさと (一)
 西住戦車長は、
 山形県西住町に生
 まれた。戦車長は、
 戦時中、大東に渡り、
 戦車隊の一員として、
 戦場を駆けまわった。
 戦後、故郷に帰ると、
 故郷はすっかり変わ
 っていた。戦時中は、
 故郷は戦火を免れ、
 静かな山村であった。
 戦後、故郷は、戦時
 中の荒廃を癒し、静
 かな山村に戻った。



この頃の村長や、いんな世
 話をして、町中の人々から
 尊敬されてゐる西住九郎と
 いふ人で、手を曳かれてゐる
 子供はその孫の小次郎だつた
 事だ、この清流に山奥の
 花が浮かんで流れて来たり、
 ツイ、ツツと若魚が走つた
 下を、ハヤが流るやうに泳
 ぎ、川底の清流が、町をぐるりと
 廻つて流れてゐる。緑川とい



破破

マキ (一) (一)
 (二) オウチノ中
 ゴ本ヲ ミマセウ。
 オクツノ
 大キイ オクツ
 ハイテ アユメ、バ
 カツポ カツポ
 スルヨ
 (三) オカアチヤン
 オジョウバ。
 シヤボンダマ。
 卷 (三) (三)

オトウト：弟ノ 三チヤン

第五 日本武蔵(草薙劍)
 東の方の悪者
 蝦夷のことで、今北
 海道にすんでゐるア
 イヌの先祖、これが
 景行天皇(今から一
 八五〇年ばかり昔)
 のころ東の方の悪者
 でした。

巻七の學習(五)

第五 水兵の母
 〇本文に次の條に實業を
 入れてしるべき。
 一命を捨てて君の御恩
 に報ゆる爲には候は
 ずや(そうてせう)
 母も人間なれば、我が
 子にくしとはつゆ思
 ひ申さず。(子供のか
 あいさは外の人の
 に)いかばかりの思ひ
 にて此の手紙をした
 めしか(その氣持
 を)よく御察し下
 れたく候
 文の解釋
 (イ)聞けば...報ゆる
 爲には候はずや
 聞けば、おまへは豊島沖の
 海戦にも出ないし、又八月
 十日の威海衛攻撃とかいふ
 のにも、とりたてていふ程
 の働もなかつたこと、
 母は本當に残念に思ひます
 一たい何のためにいかに
 御出でになつたのですか。
 命をすて、陛下の御恩にむ
 くるためではありません
 か。
 (ロ)母は其の方々の...
 張りさくるばかりにて候
 お母さんは其の方々の顔を
 見るたびに、おまへのい

巻八の學習(六)

學習の仕方
 一、言葉の中に入れて、わけ
 を考へること。
 (例)
 旅順開城(の)約成り
 て
 敵の將軍スチツセル
 (と)
 (わが)乃木大將と會
 見の
 所はいづこ(それは)
 水師營(である)
 二、次のはいみをつよめて
 る。
 今ぞ相見る二將軍。
 閣下の心いかにぞ。
 これぞ武門の面目

石研 破破
 〇自動車 ノドコニ
 コソヨウガ オコッタノ
 カ。
 〇自動車の名
 八少彦名のみこと
 よみかへ字
 岸ガシ川ノ岸
 キシ川ノ岸
 返ヘン返事
 カヘシ返した
 り
 事ジ返事
 コト仕事
 兄キヨウ兄弟
 アニ兄様方
 弟ダイ兄弟

